

企業理念とCSR

企業理念をグローバルな視点で実現し続けるために、グループ行動基準とともに国連グローバル・コンパクトやISO26000など国際的なイニシアチブやガイドラインの浸透に努めています。

創業の精神『熱と誠』

企業理念

「水と空気と環境の分野で、優れた技術と最良のサービスを提供することにより、広く社会に貢献する。」

荏原グループ行動基準の骨子

- ◆ 優れた製品とサービスをグローバルに提供することにより、事業を通じて社会に貢献します。
- ◆ 企業倫理を十分に認識し、法令を順守すると共に社会規範を尊重します。
- ◆ 事業活動にあたって、地球環境保全に配慮します。
- ◆ ステークホルダーと公正で良好な関係を保ちます。
- ◆ 経営層及び従業員は各々の職務に対し責任を果たします。

※海外グループ会社では、各国の法令、社会規範、慣習等を考慮して各々の行動基準を定めて適用しています。

行動基本原則5か条

1. いかなる些細な行動も重大な結果につながることを自覚する。
2. 行動する前に、その目的及び意味を確認する。
3. 行動にあたっては、定められた手順・ルールに従う。
4. 行動を振り返り、確認すると共に、行動の結果に責任を持つ。
5. 視野を広く取り、自己の担当部分以外にも配慮しつつ行動する。

荏原グループ行動基準

役員と従業員の行動規範として「荏原グループ行動基準」を定め、実践しています。英語と中国語に翻訳し、海外の全グループ会社にも配布し、各国の法令、社会規範、慣習等を考慮して運用することになっています。荏原グループが社会的責任を果たすには、役員、従業員一人ひとりが行動基準に即した行動をすることが基本となるため、CSR研修やコンプライアンス研修を通じて周知徹底を図っています。

CSR推進体制

CSRを推進するための機関としてCSR委員会とCSR活動企画委員会を設けています。

CSR委員会

社長を委員長とし、取締役(社外含む)と常勤監査役を委員として構成されています。企業倫理委員会を発展させ、2011年9月に発足しました。企業倫理やコンプライアンスに関わる事項の審議、改善指示に加え、荏原グループのCSR活動の状況を幅広い視点から把握し、CSR活動をより一層推進するための枠組みを示すことを目的としています。

国連グローバル・コンパクトの10原則と荏原グループ社内規程、行動基準の関係

グローバル・コンパクト		荏原グループ行動基準や社内規程	本誌での報告ページ
4分野	10原則		
人 権	①人権擁護の支持と尊重	〈行動基準〉第6章 2.職場での行動ルール(1)～(5) 従業員だけでなく、影響力を及ぼすことのできる取引先など、事業を通じて関わるステークホルダーにも適用するよう努めます。	14、18、34、38 ページ
	②人権侵害への非加担		
労 働	③組合結成と団体交渉権の実効化	〈労働協約〉第9章 労使協議会、第10章 団体交渉、第11章 組合活動の自由	37ページ
	④強制労働の排除	〈就業規則〉第3章 勤務	就業規則は非公開
	⑤児童労働の実効的な排除	就業規則で、採用は15歳以上と定めている。	
環 境	⑥雇用と職業の差別撤廃	〈行動基準〉第6章 2.職場での行動ルール(1)～(5)	42～45ページ ホームページCSR サイト
	⑦環境問題の予防的アプローチ	〈行動基準〉第3章 環境保全と私たち	
	⑧環境に対する責任のイニシアチブ		
腐敗防止	⑨環境にやさしい技術の開発と普及	〈行動基準〉第4章 社会と私たち(寄付行為、政治献金、反社会的勢力との関係遮断)、第5章 賄賂授受の禁止	3、15ページ ホームページCSR サイト
	⑩強要・賄賂等の腐敗防止の取り組み		

CSR活動企画委員会

グループ内にCSR意識を醸成することを目的として2009年に発足しました。経営企画、人事、広報、内部統制、人権・コンプライアンス、環境、調達、各カンパニーの企画部門などの部門長で構成されています。

国連グローバル・コンパクト

当社グループは国連グローバル・コンパクト(GC)を支持し、2009年に署名しています。2011年度はGC日本国内ネットワークの中で人権、生物多様性、MDGs*1、ISO26000*2、CSR報告書、サプライチェーンを研究する分科会に参加し、様々な先進活動情報を得るとともに、意見を交わしました。

また、当社グループが今後さらなるグローバル企業として活動していくためには、これらの先進活動情報を生かし、GC10原則に沿って人権の尊重、サプライチェーンマネジメント、環境保全等への取り組みをより一層推進することが重要であると認識しています。

行動基本原則再確認の日

2000年に荏原藤沢事業所で起きたダイオキシン流出事故*3以来、事故が発覚した3月23日を「行動基本原則再確認の日」と定め、毎年この日に社長からグループの社員全員に向けてメッセージを発信することにより、企業の社会的責任を見つめ直し、事故の風化防止を図っています。

東日本大震災から1年目の時期とも重なり、社会インフラや産業施設の重要機器を供給するメーカとして、災害時でも早期に操業を再開させることが当社グループの最も重要な社会的責任の一つであることを全社員が再認識しました。

今後起こりうる大規模災害に備え、BCMS*4を確実に機能させ、早期に操業を再開させることができるようにしていきます。そのためには一人ひとりが行動基本原則5か条に即して行動することが基本であることを肝に銘じ、緊急時や災害時に備えた訓練に積極的に参加していきます。

CSR研修

2011年度荏原グループ経営者CSR研修は、「グローバル経営に求められるCSR」、「事業継続計画」をテーマにしました。荏原の全役員と日本国内連結子会社代表者など66名が受講しました。BCMSの早期構築やグローバルな事業領域における人権尊重の考え方、腐敗防止に関する各国の法規制の動向について理解を深めました。

また、一般従業員に対しては、ISO26000、グローバル・コンパクト、人権啓発、コンプライアンスなどをテーマに日本国内で65回開催し、約4,400名が受講しました。



経営者CSR研修の様子

ISO26000中核主題と荏原グループのCSR活動

ISO26000中核主題	本誌の報告ページ、他媒体報告	主な活動・成果
組織統治	04, 05, 12, 13, 16, 17ページ ガバナンス報告書	グループマネジメントの強化を目的に連結経営推進室を設置しました。
人権	14, 15, 34, 38ページ ホームページCSRサイト	従業員に対する人権教育を実施しています。相談窓口を設けて相談に応じています。取引先に対しても人権尊重を求めています。
労働慣行	36～39ページ	ノー残業デーの徹底、男性社員の育児参加を促す制度などワーク・ライフ・バランスの実現に向けた活動を行っています。
環境	42～45ページ ホームページCSRサイト	2020年度までの環境目標を設定し、その達成に向けた活動を行っています。
公正な事業慣行	03, 15ページ ホームページCSRサイト	荏原グループ行動基準でいかなる贈収賄も禁止しています。
消費者課題	24～33ページ	当社では顧客課題ととらえています。お客様の期待と信頼に応える製品・サービスの提供に努めています。
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	40, 41ページ	「技術・芸術振興」、「環境保全」、「スポーツ振興」、「社会福祉」、「地域交流」を5つの柱として取り組んでいます。

*1【MDGs】ミレニアム開発目標。極度の貧困及び飢餓の撲滅、普遍的初等教育の達成等2015年までに国際社会が達成すべき8つの目標。

*2【ISO26000】組織の社会的責任に関する国際ガイドライン。

*3【ダイオキシン流出事故】<http://www.ebara.co.jp/csr/ethics/5basic-action.html>

*4【BCMS】Business Continuity Management System (事業継続マネジメントシステム)